

令和8年度全国学力・学習状況調査 ～御浜町の結果概要～

令和8年9月1日
御浜町教育委員会

1. 各教科の「平均正答率」及び「標準偏差」、IRT スコア（中学英語）

【小学校】 6年生：39名	国 語（13問）	標準偏差値	算 数（16問）	標準偏差値
御浜町	57.5%（7.5問）	2.4	49.1%（7.9問）	3.0
三重県	61.1%（7.9問）	3.0	55.0%（8.8問）	3.9
全 国	60.9%（7.9問）	3.0	56.4%（9.0問）	4.0

- 町平均正答率は、国語（約3ポイント）、算数（約7ポイント）ともに全国平均を下回りました。
- 標準偏差値は、国語（0.6ポイント）、算数（1.0ポイント）ともに全国平均より小さく、点数のばらつきが全国に比べて少ないことがわかります。

【中学校】 3年生：56名	国 語（15問）	標準偏差値	数 学（16問）	標準偏差値
御浜町	68.0%（10.2問）	3.1	66.3%（10.6問）	3.4
三重県	62.2%（9.3問）	3.4	56.2%（9.0問）	4.5
全 国	63.9%（9.6問）	3.3	57.0%（9.1問）	4.5

【中学校】 3年生：54名	英 語 4 技能（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと）						
	平均正答数集計値		技能別平均正答数集計値			IRT スコア集計値	
	平均正答数	標準偏差値	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと	平均 IRT スコア	標準偏差値
御浜町	4.5/9	2.4	1.1/2	2.5/5	0.8/2	514	107.9
三重県	4.3/9	2.4	1.1/2	2.6/5	0.6/2	492	105.3
全 国	4.5/9	2.5	1.2/2	2.6/5	0.7/2	499	108.1

- 町平均正答率は、国語（約4ポイント）、数学（約9ポイント）、英語（IRT スコア 15 ポイント）ともに全国平均を上回りました。
- 標準偏差値は、国語（0.2ポイント）、数学（1.1ポイント）、英語（0.1ポイント）ともに全国平均より小さく、点数のばらつきが全国に比べて少ないことがわかります。

(※)英語の学力調査に導入された「IRT スコア」について

○IRT(Item Response Theory:項目反応理論)とは

国際的な学力調査(PISA など)や英語資格(TOEIC など)で採用されているテスト理論。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさし(尺度)で比較できる。中学校英語の調査は、4 日間にわたってオンライン形式で実施されたため、IRT が導入された。

○IRT スコア

IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にして得点で表すもの。難易度の高い問題に正答すると高めに、難易度の低い問題に誤答すると低めに算出される。

2. 各教科における傾向

【小学校】 ○できた ●課題がある

国語	○知識及び技能「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」 4/13 問 町 66.7% (国 66.8%) ・〔問題番号 1 二 (3) (選択式)〕「比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる」は、正答率 79.5% (国 65.2%) ・〔問題番号 3 一 (選択式)〕「話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる」は、正答率 76.9% (国 76.7%) ●思考力・判断力・表現力「B 書くこと」 2/13 問 町 35.9% (国 45.7%) ・〔問題番号 2 一 (選択式)〕「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる」は、正答率 38.5% (国 57.9%) ・〔問題番号 2 四 (記述式)〕「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」は、正答率 33.3% (国 33.5%) <u>問題形式で見ると</u> ・「選択式」 9/13 問 町 59.0% (国 61.9) -2.9pt ・「短答式」 2/13 問 町 55.1% (国 62.6) -7.5pt ・「記述式」 2/13 問 町 53.8% (国 54.9) -1.1pt
算数	○「C 測定」 1/16 問 町 69.2% (国 78.1%) ・〔問題番号 4 (2) (短答式)〕「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる」については、正答率 69.2% (国 78.1%) ○「A 数と計算」 8/16 問 町 54.2% (国 61.1%) ・〔問題番号 3 (1) (短答式)〕「小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる」については、正答率 97.4% (国 94.5%) ●「C 変化と関係」 3/16 問 町 29.1% (国 41.1%) ・〔問題番号 4 (3) (短答式)〕「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」は、正答率 7.7% (国 17.9%) ・〔問題番号 3 (3) (記述式)〕「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」は、正答率 17.9% (国 44.0%)

算 数	●「A 数と計算」 8/16 問 町 54.2% (国 61.1%) ・〔問題番号 2 (4) (選択式)〕「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる」については、正答率 25.6% (国 34.2%)
	<u>問題形式で見ると</u> ・「選択式」 5/16 問 町 52.3% (国 56.0) -3.7pt ・「短答式」 8/16 問 町 49.4% (国 59.7) -10.3pt ・「記述式」 3/16 問 町 43.6% (国 48.5) -4.9pt

【中学校】

国 語	○思考力・判断力・表現力「B 書くこと」 3/15 問 町 69.6% (国 67.4%) ・〔問題番号 3 二 (短答式)〕「表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる」は、正答率 98.2% (全国 92.3%) ○知識及び技能「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」 町 71.1% (国 63.0%) ・〔問題番号 1 一 (選択式)〕「助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる」は、正答率 85.7% (全国 84.3%) ●思考力・判断力・表現力「C 読むこと」 3/15 問 町 60.1% (国 59.7%) ・〔問題番号 4 四 (記述式)〕「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる」は、正答率 30.4% (国 38.9%) <u>問題形式で見ると</u> ・「選択式」 9/15 問 町 74.2% (国 72.7) +1.5pt ・「短答式」 3/15 問 町 70.8% (国 55.8) +15.0pt ・「記述式」 3/15 問 町 45.2% (国 45.5) -0.3pt
	○「A 数と式」 5/16 問 町 78.9% (国 67.8%) ・〔問題番号 1 (短答式)〕「具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる」は、正答率 91.1% (国 85.7%) ○「C 関数」 3/16 問 町 63.1% (国 54.8%) ・〔問題番号 7 (1) (記述式)〕「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる」は、正答率 91.1% (国 75.2%) ●「D データの活用」 4/16 問 町 61.2% (国 53.5%) ・〔問題番号 9 (3) (記述式)〕「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる」は、正答率 28.6% (国 31.9%)

数 学	問題形式で見ると
	・「 選択式 」 3/16 問 町 73.8% (国 59.3) +14.5pt
	・「 短答式 」 9/16 問 町 72.2% (国 64.2) +8.0pt
	・「 記述式 」 4/16 問 町 47.3% (国 39.1) +8.2pt

※英語は各校で問題が異なるため、**全員が取り組む問題 9 問**を分析

英 語 (共 通 公 開 9 問)	○「 (1) 聞くこと 」 町 1.1/2 問 (国 1.2/2 問)
	・〔問題番号 1 (選択式)〕「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」は、正答率 63.0% (国 60.2%)
	○「 (3) 話すこと (やりとり) 」 町 0.8/2 問 (国 0.7/2 問)
	・〔問題番号 15 (1) (短答式)〕「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」は、正答率 55.6% (国 42.3%)
	●「 (2) 読むこと・(5) 書くこと 」 町 2.5/5 問 (国 2.5/5 問)
	・〔問題番号 10 (2) (記述式/口述式)〕「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」は、正答率 27.8% (国 27.8%)

○町全体の各教科における傾向は、上記のような成果と課題が挙げられます。しかし、各学校での成果と課題についてはそれぞれ異なるので、夏季休業中に校内研修会や中学校 3 校合同の教科別研修会を開催し、各校において詳細な分析・検討に取り組みました。今後も県教育委員会と連携しながら、今回の調査結果を授業や指導方法の改善に生かせるよう指導・支援していきます。

3. 質問調査（児童生徒・学校）における特徴的な傾向

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	R 8	R 7	R 6	前年との比較
(38) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	84.7%	69.6%	68.4%	+15.1pt
(39) 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	76.9%	80.3%	80.0%	-3.4pt
(42) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか	84.6%	87.5%	85.0%	-2.9pt

【中学生】

質問項目	R 8	R 7	R 6	前年との比較
(38) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	74.1%	69.4%	66.0%	+4.7pt
(39) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	81.5%	85.7%	86.8%	-4.2pt
(42) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか	87.1%	85.7%	92.4%	+1.4pt

【学校】

質問項目	R 8	R 7	R 6	前年との比較
(26) 調査対象学年の児童生徒は、受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	100%	100%	100%	±0pt
(27) 調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどの工夫をして、発言や発表を行うことができていると思いますか	100%	71.4%	100%	+28.6pt
(33) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	100%	85.7%	85.7%	+14.3pt

◎「工夫して発言や発表ができる」については、昨年度より小中学生・学校ともに肯定的な回答が増えており、特に小学生については約 15 ポイントもアップするなど大きく改善されました。

◎また、学校調査でもすべての項目が 100%となるなど町内すべての学校で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に積極的に取り組んでいることがわかります。

町教育委員会においても、今後もグループでの協働的な学習や活動を通じて一人ひとりの子どもたちが主体的に考えをまとめたり、深めたりできるよう、各学校の授業改善に対する指導や支援に取り組み、子どもたちの学力向上に向けた取組を着実に進めていきます。

② ICT 機器の活用

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国
(35) 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか 《回答…週3回以上》	51.3%	68.8%
(36-1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	76.9%	79.1%
(36-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか	89.7%	84.9%
(36-3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	61.6%	69.5%
(36-4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	74.4%	74.6%

【中学生】

質問項目	御浜町	全 国
(35) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか 《回答…週3回以上》	90.7%	78.2%
(36-1) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか	94.5%	84.8%
(36-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べる）ことができると思いますか	96.3%	90.9%
(36-3) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	64.8%	69.4%
(36-4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか	87.0%	80.0%

◎ICT 機器が日常の授業に定着している様子が伺え、小中学生ともに情報収集やプレゼンテーションの作成に効果的な活用ができています。とくに中学生においては全国を上回るほど肯定的な回答が見られました。

◎文部科学省の資料によると、ICT 機器の活用に自信がある児童生徒ほど各教科の正答率が高い傾向が見られることから、今後も ICT 機器の活用に自信が持てるような指導を通じて、学習への意欲や工夫する姿勢を高めていく必要があります。

③ 自己肯定感に関する状況

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国
(8) 自分には、よいところがあると思う	89.8%	85.6%
(9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	97.4%	91.4%
(10) 将来の夢や希望を持っていますか	76.9%	81.8%

【中学生】

質問項目	御浜町	全 国
(8) 自分には、よいところがあると思う	83.3%	84.0%
(9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.7%	90.9%
(10) 将来の夢や希望を持っていますか	61.1%	67.6%

◎自己肯定感については、小学生は全国平均より高く、教師からの承認満足度もかなり高い傾向が見られます。また、中学生についても自己肯定感、教師からの承認満足度ともに全国平均と同様に高い傾向にあります。しかし、逆に言えば、10%の児童、17%の生徒が自分にはよいところがないと考えており、将来の夢や希望を持っている児童生徒も全国平均より少し低くなるなど、課題として認識する必要があります。

◎自己肯定感を涵養していくためには、教育活動全般において、一人ひとりの様子をしっかりと把握し、子どもに寄り添う教育を進めることが大切と言えます。わかりやすい授業づくりはもとより、地域の方との関わりを大切にした体験学習や主権者教育、キャリア教育に取り組むなど、児童生徒の夢や希望を伸ばし、自信を持って行動できるような指導を今後も継続していく必要があります。

④ 規範意識

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国
(11) 人が困っているときは、進んで助けますか	87.2%	92.7%
(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5%	96.2%
(14) 人の役に立つ人間になりたいですか	97.4%	95.8%

【中学生】

質問項目	御浜町	全 国
(11) 人が困っているときは、進んで助けますか	87.1%	90.8%
(12) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	92.6%	95.1%
(14) 人の役に立つ人間になりたいですか	88.9%	95.9%

◎規範意識については、90%前後の小中学生が肯定的な回答をしています。とくに小学生は97%以上が「いじめはいけない」、「人の役に立つ人間になりたい」と回答しており、規範意識の高さが伺えます。

◎今後も子どもたちの規範意識をより高められるよう、各学校での人権学習に積極的に取り組むとともに、保護者や地域の方との連携・交流を通じて、その大切さを感じられるような学習を進めていく必要があります。

⑤ 生活習慣

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国
(1) 朝食を毎日食べていますか	89.3%	93.3%
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	71.8%	82.8%
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.3%	90.7%

【中学生】

質問項目	御浜町	全 国
(1) 朝食を毎日食べていますか	92.6%	90.9%
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	92.6%	80.5%
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.6%	92.4%

◎生活習慣については、小学生は朝食、起床時間ともにほぼ 90%が規則正しいと回答していますが、就寝時間だけが約 30%も不規則と回答しています。一般的にスマホやゲーム、スポーツ活動や塾への参加、家庭の生活リズムの影響などが考えられますが、体調不良を起こす原因ともなりますので、ぜひ改善したいものです。

◎一方で、中学生はすべての項目で 90%以上の回答となっており、ご家庭において規則正しい生活が送れるよう適切な指導をしていただいていることが伺えます。

★注：中学生が3項目とも92.6%となっているのは誤りではありません。

⑥ 学習習慣

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国
(23) 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1時間以上》	33.3%	49.9%
(25) 学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1時間以上》	28.3%	39.0%

【中学生】

質問項目	御浜町	全 国
(23) 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1時間以上》	38.9%	61.6%
(25) 学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか《1時間以上》	44.5%	48.9%

◎令和3年度以降、全国的にも小中学生の家庭学習時間は減少傾向が続いています。本町においても家庭での学習習慣の定着はここ数年の課題となっており、小中学生とも全国平均を下回る結果となりました。

◎本町でも、今年度より三重県教育委員会の「学習習慣の確立に向けた取組推進事業」を受けて改善に向けた取組を進めています。また、文部科学省の分析資料によると「学校の勉強のことを家族と話している」児童生徒ほど、「自分の理解を確認するために学習したことを振り返る」と考える傾向があるという結果も出ていますので、各家庭にも協力をお願いし、学習習慣の定着を図っていく必要があります。

⑦ 学習への意欲・関心

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国
(53) 国語の勉強は好きですか	59.0%	57.4%
(54) 国語の授業の内容はよく分かりますか	87.2%	81.5%
(61) 算数の勉強は好きですか	61.5%	57.6%
(62) 算数の授業の内容はよく分かりますか	79.5%	77.5%

【中学生】

質問項目	御浜町	全 国
(53) 国語の勉強は好きですか	59.2%	57.2%
(54) 国語の授業の内容はよく分かりますか	70.3%	76.8%
(61) 数学の勉強は好きですか	64.8%	56.1%
(62) 数学の授業の内容はよく分かりますか	81.5%	74.2%
(70) 英語の勉強は好きですか	55.5%	51.2%
(71) 英語の授業の内容はよく分かりますか	61.1%	64.2%

◎学習への意欲・関心は、小中学生ともに各教科とも肯定的な回答が全国平均を上回っています。また、授業内容についても小学生は肯定的な回答が全国平均を上回っており、児童たちは授業をしっかり受けていると評価することができます。中学生ではとくに数学の授業内容がよく分かると肯定的な回答をした生徒が全国平均より7ポイントも高く、教科の学力テストの結果でも全国平均を上回るなどの成果につながっていると言えます。

◎一方で、小学生では国語・算数ともに「授業内容がよく分かる」という回答が全国平均を上回っているにも関わらず、教科の学力テストの結果が全国平均を下回っている点については、今後の授業改善の課題とする必要があります。

⑧ 地域との関わり、社会への関心

【小学生】

* 肯定的な回答の割合

質問項目	御浜町	全 国
(33) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	84.6%	80.1%

【中学生】

質問項目	御浜町	全 国
(33) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	72.2%	72.3%

◎各学校ともそれぞれの特色を生かして、学校運営協議会と連携した体験学習など、地域との関わりを大切にした教育活動に積極的に推進している成果もあり、小中学生とも肯定的な回答が全国平均と同等もしくは上回っています。

◎今後も、各学校において保護者や地域の方との交流や体験学習、将来のまちづくりの主体者としての意識を高める主権者教育などに継続して取り組むことにより、郷土“御浜町”に対する愛着や誇りをもち、地域や社会に対する関心を高めていく教育活動を進めていきます。

4. 今後の町教育委員会の取組（改善に向けて）

町教育委員会では、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果から、児童生徒の学力・生活習慣や各学校の授業改善の取組の成果と課題をとらえ、教育施策に反映していく予定です。具体的には、年間を通じた各学校の主体的な取組を支援する「授業力向上支援事業」（※下記記載）を中心に、各学校の連携・協力も大切にしながら、組織的・継続的な学力向上の取組を進めていきます。

今後も、これらの事業を中心として、県教育委員会と連携し、児童生徒のよりよい学びに向けた各学校の取組への指導・支援に取り組んでまいります。

◆「授業力向上支援事業」

① 授業改善を目的とした公開授業研究会の開催、県内外の「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組む研修会等への参加、先進校視察

- ・誰一人取り残すことのない授業実践を目指して、町内各校において著名な大学教授等をスーパーバイザーとして招聘した公開授業研究会を年間を通して計画的に開催する。（各校年3回の開催）

- ・各学校において、校長がリーダーシップを発揮して授業改善研修を推進するためのマネジメント研修会を開催する。(年3回開催、講師は大学教授等のスーパーバイザー)
- ・全国的な研究大会等への参加や、協働と探究の学びの実践に取り組んでいる先進的な学校の視察などを通じて研修を深め、授業改善に努める。

② 全国学力・学習状況調査・みえスタディ・チェックの活用

- ・児童生徒の自己肯定感を大切にし、前向きに挑戦し学び続ける児童生徒を育成するため、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用した事前・事後の取組をすすめ、その分析結果をもとに授業や指導方法の改善に取り組む。
- ・中学校3校の合同教科部会(国・数・英)を開催し、学力・学習状況調査の結果分析に連携・協力して取り組む。(ベテランと若手の連携)

③ 町全体としての組織的・系統的な研修体制の構築

- ・町内教職員全員が、他校の公開授業研究会に参加し、各自の研修を深めるとともに、各学校が連携・協力した組織的な研修体制につなげる。(児童生徒理解を深めるために、校種や規模の異なる他校の公開授業研究会への参加も推奨)
- ・研修委員会等で全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用した授業改善の取組を共有し、町全体として組織的な研修体制の構築をすすめる。